

日本第四紀学会

「日本第四紀学会の防災への貢献」

北村晃寿
(静岡大学防災総合センター教授)



日本第四紀学会

Japan Association for Quaternary Research

会員マイページ

お問い合わせ

ENGLISH

ホーム

本学会の紹介

学会誌 (第四紀研究)

会報 (第四紀通信)

大会・総会

領域の活動

入会案内

リンク



チバニアンGSSPがある千葉セクション

日本第四紀学会は、第四紀という約260万年前から現在にいたる地質年代を学会名としている唯一の学会である。本会は自然、環境、人類の研究を通して、現在と近未来の環境を理解することを目的とし、それに関わるさまざまな分野の専門家で構成されている。そのため、研究手法はマルチディシプリンなものである。本会は、過去約260万年間に及ぶ地震、津波、火山活動などの自然災害の履歴を調査し、その成果が災害の長期予測や防災政策の基礎的資料として重要な役割を果たしてきた。発表ではこれらの貢献を具体的に示し、さらに今後の展望について述べる。

「第四紀研究」の通常論文

第四紀研究

Online ISSN : 1881-8129
Print ISSN : 0418-2642
ISSN-L : 0418-2642

資料トップ 早期公開 **巻号一覧** この資料について

J-STAGEトップ / 第四紀研究 / 巻号一覧

検索 OR 閲覧
[詳細検索](#)

巻号一覧



64 巻 (2025)	-
4 号 p. 79-	
3 号	
2 号 p. 27-	
1 号 p. 1-	
63 巻 (2024)	+
62 巻 (2023)	+
61 巻 (2022)	+
60 巻 (2021)	+
59 巻 (2020)	+
58 巻 (2019)	+
57 巻 (2018)	+
56 巻 (2017)	+
55 巻 (2016)	+
54 巻 (2015)	+
53 巻 (2014)	+
52 巻 (2013)	+
51 巻 (2012)	+
50 巻 (2011)	+
49 巻 (2010)	+
48 巻 (2009)	+
47 巻 (2008)	+
46 巻 (2007)	+
45 巻 (2006)	+

最新号

選択された号の論文の1件中1〜1を表示しています

[メタデータをダウンロード](#) [すべての抄録を表示する](#)

< < 1 > > |

論説

滋賀県彦根市芹川の段丘堆積物の花粉化石群—植生変遷および始良Tn火山灰の降灰季節とその植生への影響

稲田 晃, 西村 祥子, 金子 陽子, 上中央子, 島村 健二, 志水 里美, 松江 美千代, 林 竜馬

2025 年64 巻4 号 p. 79-97

発行日: 2025/11/01

公開日: 2025/12/17

[早期公開] 公開日: 2025/11/18

[DOI](https://doi.org/10.4116/jaqua.64.2303) <https://doi.org/10.4116/jaqua.64.2303>

[ジャーナル](#) [フリー](#)

[J-STAGE DATA](#)

[抄録を表示する](#) [PDF形式でダウンロード \(2358K\)](#)

< < 1 > > |

災害研究分野の特集号

64 巻 (2025)	+
63 巻 (2024)	-
4 号 p. 215-	
3 号 p. 183-	
2 号 p. 61-	
1 号 p. 1-	
62 巻 (2023)	+
61 巻 (2022)	+
60 巻 (2021)	+
59 巻 (2020)	+
58 巻 (2019)	+
57 巻 (2018)	+
56 巻 (2017)	+
55 巻 (2016)	+
54 巻 (2015)	+
53 巻 (2014)	+
52 巻 (2013)	+
51 巻 (2012)	+
50 巻 (2011)	+
49 巻 (2010)	+
48 巻 (2009)	+
47 巻 (2008)	+
46 巻 (2007)	+
45 巻 (2006)	+

特集号「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害：防災・減災に向けて」の趣旨説明

奥野 充, 遠田 晋次, 中西 利典, 山田 和芳, 石原 与四郎, 河谷 愛彦

2024 年63 巻2 号 p. 61-64

発行日: 2024/05/01

公開日: 2024/05/29

[早期公開] 公開日: 2024/05/15

[DOI](https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2414) <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2414>

[ジャーナル](#) [フリー](#)

[抄録を表示する](#) [PDF形式でダウンロード \(327K\)](#)

地中レーザ探査からみた丹那断層田代地点の極浅部地下の左横ずれ変形構造

木村 治夫, 堤 浩之, 稲荷 純音, 谷口 薫, 中西 利典

2024 年63 巻2 号 p. 65-75

発行日: 2024/05/01

公開日: 2024/05/29

[早期公開] 公開日: 2023/07/13

[DOI](https://doi.org/10.4116/jaqua.62.2207) <https://doi.org/10.4116/jaqua.62.2207>

[ジャーナル](#) [フリー](#)

[抄録を表示する](#) [PDF形式でダウンロード \(3555K\)](#)

糸魚川-静岡構造線断層帯における連動型巨大地震の発生可能性評価

近藤 久雄

2024 年63 巻2 号 p. 77-90

発行日: 2024/05/01

公開日: 2024/05/29

[早期公開] 公開日: 2023/11/16

[DOI](https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2219) <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2219>

[ジャーナル](#) [フリー](#)

[抄録を表示する](#) [PDF形式でダウンロード \(8859K\)](#)

陸域アーカイブとしての石灰岩洞窟とそこにみられる堆積物の可能性：古環境と人類史を読み解く手がかり

石原 与四郎, 山崎 真治

2024 年63 巻2 号 p. 91-111

発行日: 2024/05/01

速報

令和6年能登半島地震(いずれもオープンアクセス)

32巻 (1993)	+
31巻 (1992)	+
30巻 (1991)	+
29巻 (1990)	+
28巻 (1989 - 1990)	+
27巻 (1988 - 1989)	+
26巻 (1987 - 1988)	+
25巻 (1986 - 1987)	+
24巻 (1985 - 1986)	+
23巻 (1984 - 1985)	+
22巻 (1983 - 1984)	+
21巻 (1982 - 1983)	+
20巻 (1981 - 1982)	+
19巻 (1980)	+
18巻 (1979 - 1980)	+
17巻 (1978)	+
16巻 (1977 - 1978)	+
15巻 (1976 - 1977)	+
14巻 (1975)	+
13巻 (1974)	+
12巻 (1973 - 1974)	+
11巻 (1972)	+
10巻 (1971)	+
9巻 (1970)	+

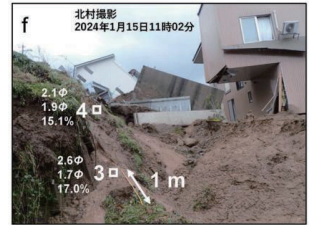
口絵 令和6年能登半島地震に伴う石川県金沢市田上新町と内灘町における土砂災害

北村 晃寿, 石川 芳治, Robert G. Jenkins
2024年63巻2号 p. i-ii
発行日: 2024/05/01
公開日: 2024/05/29
[早期公開] 公開日: 2024/05/07

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2403i>

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (9272K)



口絵 令和6年能登半島地震に伴う石川県内の被災状況

北村 晃寿, 原田 賢治
2024年63巻2号 p. iii-iv
発行日: 2024/05/01
公開日: 2024/05/29
[早期公開] 公開日: 2024/05/07

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2404i>

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (3644K)



口絵 令和6年能登半島地震による新潟市街部での液状化被害

卜部 厚志, 片岡 春子, 河島 克久, 西井 稜子, 渡部 直喜, 新屋 啓文, 松元 高峰, 渡部 俊, 高清水 康博, 藤林 紀枝, ...
2024年63巻2号 p. v-vii
発行日: 2024/05/01
公開日: 2024/05/29
[早期公開] 公開日: 2024/05/11

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2407i>

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (5130K)



口絵 令和6年能登半島地震に伴う海岸変化

安江 健一, 立石 良, 石山 達也, 松多 信尚, 廣内 大助, 白濱 吉起
2024年63巻2号 p. viii-x
発行日: 2024/05/01
公開日: 2024/05/29
[早期公開] 公開日: 2024/05/15

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.63.2410i>



速報 2011年東北地方太平洋沖地震の被害状況(オープンアクセス)

58巻 (2019)	+
57巻 (2018)	+
56巻 (2017)	+
55巻 (2016)	+
54巻 (2015)	+
53巻 (2014)	+
52巻 (2013)	+
51巻 (2012)	+
50巻 (2011)	-
6号 p. 279-	
5号 p. 207-	
4号 p. 169-	
3号 p. 133-	
2号 p. 85-	
1号 p. 1-	

雑録

2011年東北地方太平洋沖地震に伴う津波の痕跡とその被害

熊原 康博, 渡辺 満久, 中田 高, 小岩 直人
2011年50巻3号 p. 149-152
発行日: 2011/06/01
公開日: 2012/04/26

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.50.149>

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (780K)



2011年東北地方太平洋沖地震による宮城県亘理町と福島県相馬市・南相馬市の津波被害

長橋 良隆, 廣瀬 孝太郎, 柴崎 直明
2011年50巻3号 p. 153-156
発行日: 2011/06/01
公開日: 2012/04/26

DOI <https://doi.org/10.4116/jaqua.50.153>

ジャーナル フリー

PDF形式でダウンロード (607K)



年1回の大会・シンポジウム

年	開催地	大会シンポジウム
2025	島根大学(8/28～9/1)	出雲平野と宍道湖の歴史
2024	東北大学(8/29～9/2)	東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから
2023	早稲田大学(8/31～9/4)	都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究
2022	静岡県地震防災センター (8/26～28)	伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害
2021	オンライン-大阪(8/27～ 29)	近畿における歴史時代の自然環境
2020	オンライン(12/26～27)	
2020 (総 会)	オンライン(8/28～29)	
2019	千葉科学大学(8/23～26)	関東平野東部における第四紀研究の最近の成果
2018	首都大学東京(8/24～28)	自然環境と人類の将来予測に向けた第四紀学の最先端:各領域分野の最新動向とその共有・発展をめざして
2017	福岡大学(8/26～30)	第四紀研究から防災・減災への多角的なアプローチ

日本第四紀学会「令和6年能登半島地震に関するシンポジウム」

緊急シン ポジウム の開催

- <https://sites.google.com/view/jaqua2024noto/>
- 日時：2024年7月7日（日）13:00～17:00
- 形式：ハイブリッド（現地+zoomウェビナー）
- 参加費：無料
- 開催趣旨：

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、幅広い分野を有する第四紀学の利点を活かし、会員を中心として地殻変動、津波堆積物、液状化、斜面災害（地すべり）、海底地形等に関する緊急性の高い調査研究を実施してきました。本シンポジウムでは、発生後約半年が経過した時点において、現地調査やその後の研究によってもたらされた知見を網羅的に提供して、“変動帯”日本列島における防災について考える機会とします。

- 現地会場：早稲田大学大隈記念講堂大講堂（東京都新宿区戸塚町1-104） 事前申込不要
- zoomウェビナー：以下から参加登録をお願いします。
https://list-waseda-jp.zoom.us/webinar/register/WN_O6k4uHEiRROyLAndnARh5g#/

プログラム（今後、シンポジウムのホームページ上で順次更新があります）

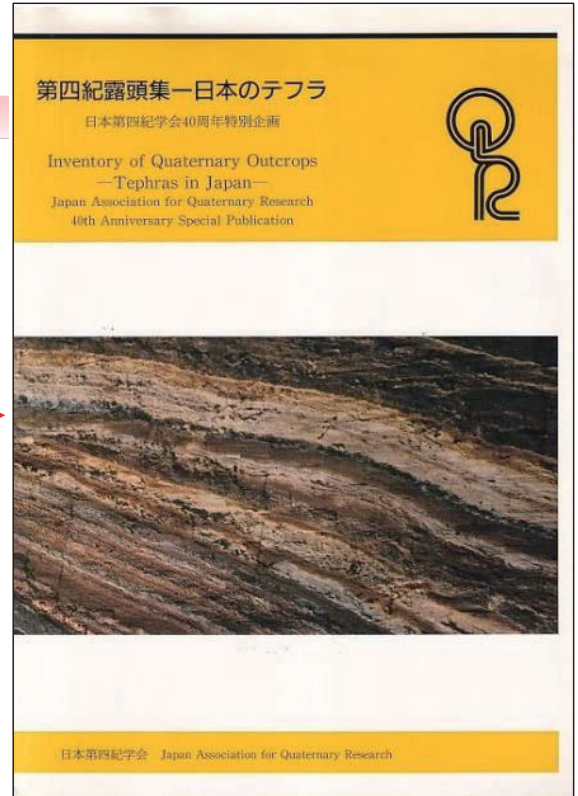
13:00 開会あいさつ
13:05 会長あいさつ
13:05-14:25 基調講演
13:05-13:45 西村卓也（地殻変動）
13:45-14:25 朴進午（Jin-Oh Park）（海底地形）
14:25-15:00 ポスターコアタイム・休憩（35分）
15:00-16:30 一般講演
15:00-15:15 吾妻 崇（更新世段丘・活断層）
15:15-15:30 立石 良（海岸隆起）
15:30-15:45 北村晃寿（津波）
15:45-16:00 須貝俊彦（斜面災害）
16:00-16:15 小岩直人（液状化現象）
16:15-16:30 青木賢人（防災活動）
16:30-16:55 総合討論（座長：小荒井衛）
16:55 閉会あいさつ

半年後に最新の知見を
一般に向けて発信

不定期出版物

出版物案内

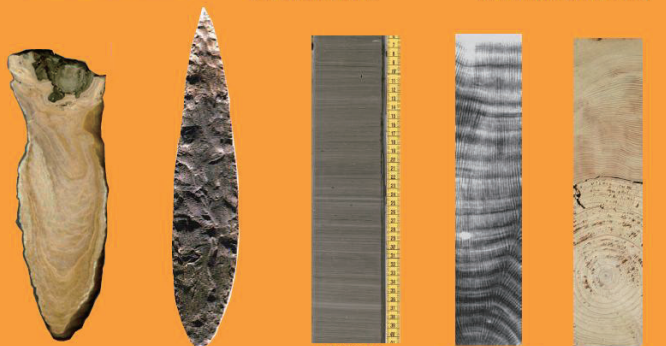
- 『デジタルブック最新第四紀学』（第2刷）現在注文を停止しております
日本第四紀学会電子出版編集委員会編，日本第四紀学会，2013年
- 『デジタルブック最新第四紀学』
日本第四紀学会電子出版編集委員会編，日本第四紀学会，2010年1月
- 『地球史が語る近未来の環境』
日本第四紀学会・町田 洋・岩田修二・小野 昭 編，東京大学出版会，2007年6月
- 『日本先史時代の¹⁴C年代』
中村俊夫・辻誠一郎・樋泉岳二・津村宏臣・春成秀爾 編，日本第四紀学会，2000年7月
- 『第四紀露頭集—日本のテフラ』
第四紀露頭集編集委員会 編，日本第四紀学会，1996年8月
- 『第四紀試料分析法』
日本第四紀学会 編，東京大学出版会，1993年9月
- 『図解・日本の人類遺跡』
日本第四紀学会・小野昭・春成秀爾・小田静夫 編，東京大学出版会，1992年9月
- 『百年・千年・万年後の日本の自然と人類 第四紀研究にもとづく将来予測』
日本第四紀学会 編，古今書院，1987年8月
- 『日本第四紀地図』
日本第四紀学会 編，東京大学出版会，1987年7月
- 『日本の第四紀研究 その発展と現状』
日本第四紀学会 編，東京大学出版会，1977年2月



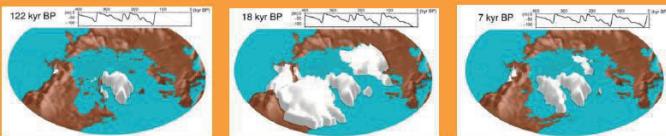
日本第四紀学会のリーフレット



第四紀とは



様々なアーカイブ



水期一閉水期サイクルに伴う北半球高緯度の氷床の消長のシミュレーション

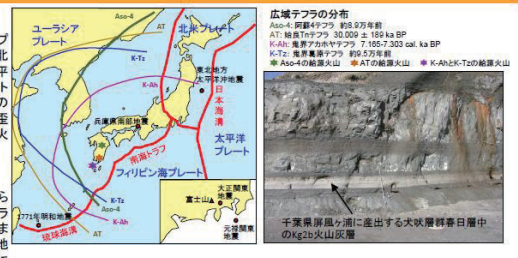
日本第四紀学会編 2015年5月



火山, 地震, 津波

プレートテクトニクス

日本列島周辺には、大陸プレートのユーラシアプレートと北米プレート、海洋プレートの太平洋プレートとフィリピン海プレートがあります。海洋プレートが他のプレートの下に沈み込む際の歪みや物質移動により、火山噴火や地震が発生します。



火山噴火

巨大噴火が起きると、火口から1000 km以上の地域までテフラ(火砕物)が到達することがあります。このようなテフラは、遠隔地間の地層を対比する時に非常に役立ちます。また、テフラの分析から、噴火の場所、時代、規模、推移などを推定できます。

1995年の兵庫県南部地震に伴って出現した地震断層

地震断層が出現した場所には既存の活断層があり、それが動いたことが分かりました。活断層は、将来も地震を起こして活動する可能性が高いので、長期的な地震予測に向けて、全国の活断層の過去の活動時期や活動度などの調査が進められています。

東北地方太平洋沖地震

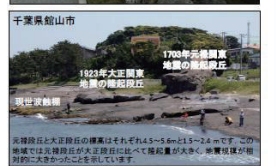
2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)は、日本での観測史上最大の地震でした。この地震と巨大な津波は、東北地方の海岸部を中心に甚大な被害をもたらしました。仙台平野などでは津波で海岸から運ばれた地層が広い範囲に堆積しました。津波が残した堆積層を津波堆積物といいます。仙台平野などの過去の津波堆積物の研究からは、869年に起きた貞観地震とそれによる津波も、2011年の地震・津波と類似した規模であったことが分かっています。



また、津波堆積物や津波石(津波で打ちあがった礫)は、歴史記録以前の巨大津波に関する情報として重要であることから、日本各地で調査が進められています。

関東地震

1923年の大正関東地震や1703年の元禄関東地震は、相模トラフで発生した海溝型地震です。これらの地震で、三浦半島や房総半島周辺では急激な隆起が発生し、海岸段丘が形成されました。そのため、相模トラフで発生する海溝型地震の実態を解明するために、これらの段丘の分布や形成年代が調査されています。



日本第四紀学会

- 主な活動
- 1)会誌『第四紀研究』の発行、年6号
- 2)雑誌『第四紀遺情』の発行、年6号
- 3)大会の開催、8月頃、一般研究発表、シンポジウム、連検、総会など
- 4)講演会・講習会等の開催、年数回程度
- 5)撮影・学術賞、学術賞、論文賞、奨励賞、功労賞、若手・学生発表賞
- 6)国際第四紀学会(INQUA)との連携、2015年7月名古屋で第19回大会開催
- 7)研究委員会-INQUAのCommissionに対応した研究委員会を設置し、研究の推進を図っている。

主な特別出版物
『デジタルブック最新第四紀学』日本第四紀学会(2009)
『開い合わせ先』
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12 新宿ラムダックスビル10階
株式会社尊恒社学術事業部内 日本第四紀学会事務局
TEL:03-5291-6231 FAX:03-5291-2176 E-mail:dayonshi@shunkusha.com
日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/>
資料提供 阿部彰子、安藤規孝、遠藤邦彦、小野 昭、北村晃寿、工藤雄一郎、菅沼悠介、鈴木毅彦、多田隆治、中川 勉、福留館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、藤原 浩、水野清秀(あいうえお順)
担当 北村晃寿 2015年7月9日 改訂版・更新日

地震調査研究推進本部が公表した「海溝型地震・主要活断層帯・海域活断層の長期評価」に用いられた成果物

断層名	第四紀研究	講演要旨集	第四紀露頭集	断層名	第四紀研究	講演要旨集	第四紀露頭集	断層名	第四紀研究	講演要旨集	第四紀露頭集
千島海溝沿い地震活動	1			曾根丘陵断層帯	2		1	生駒断層帯	1		
日本海東縁部地震活動	1			櫛形山脈断層帯・櫛形山脈断層帯			1	上町断層帯			1
相模トラフ沿い地震活動	11			月岡断層帯			1	六甲・淡路島断層帯	3		1
南海トラフ地震活動	2	1		六日町断層帯	1			大阪湾断層帯	1		
日向灘及び南西諸島海溝周辺地震活動	1			高田平野断層帯			1	山崎断層帯	1		1
標津断層帯	1			境峠・神谷断層帯	4	1	1	穴道(鹿島)断層		1	
十勝平野断層帯	1			木曾山脈西縁断層帯	1		1	岩国-五日市断層帯			1
富良野断層帯	2			魚津断層帯	2			岩国断層帯			1
石狩低地東縁断層帯			1	砺波平野断層帯・呉羽山断層帯	1		1	菊川断層帯			1
黒松内低地断層帯	2			邑知潟断層帯	5		1	中央構造線断層帯(金剛山地東縁-伊予灘)	4		1
函館平野西縁断層帯	1			牛首断層帯	1			長尾断層帯			1
青森湾西岸断層帯	1			跡津川断層帯	3	2	1	福智山断層帯			1
津軽山地西縁断層帯	1			阿寺断層帯	5	1	1	西山断層帯, 西山断層帯	1		1
能代断層帯	1	1		屏風山・恵那山断層帯及び猿投山断層帯	2			宇美断層			1
機手盆地東縁断層帯		2		庄川断層帯	2	1		警国(けこ)断層帯			1
山形盆地断層帯			1	濃尾断層帯			1	日向峠-小笠木峠断層帯			1
庄内平野東縁断層帯	1	2		柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯	3			水縄断層帯			1
長井盆地西縁断層帯		1		養老-桑名-四日市断層帯		1		日出生断層帯			1
深谷断層帯・綾瀬川断層			1	伊勢湾断層帯	1			万年山-崩平山断層帯			1
関東平野北西縁断層帯	1	1	1	布引山地東縁断層帯			1	雲仙断層群, 雲仙断層群	1	1	1
立川断層帯	1			頓宮断層	1			布田川・日奈久断層帯	5		1
塩沢断層帯・平山-松田北断層帯	6			琵琶湖西岸断層帯	1	2	1	出水断層帯		1	1
神縄・国府津-松田断層帯	12	2	1	三方・花折断層帯			1	飯断層帯			1
三浦半島断層群	1			京都盆地-奈良盆地断層帯南部	2			宮古島断層帯	1		
鶴川低地断層帯	1			中央構造線断層帯(金剛山地東縁-由布院)	2		1	合計	120	22	41
富士川河口断層帯	14			三峠・京都西山断層帯			1				

内閣府の火山対策の「火山防災マップ作成指針」

表3-2 災害要因実績図及びその基になる資料

資料	内容	発行元
火山基本図	縮尺 1/5,000(有珠山、吾妻山、阿蘇山、三宅島、伊豆大島、桜島、草津白根山、浅間山、樽前山、雲仙岳、十勝岳、御嶽山)、1/10,000(十勝岳、雌阿寒岳、北海道駒ヶ岳、岩木山、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、鳥海山、蔵王山、安達太良山、磐梯山、那須岳、焼岳、浅間山、富士山、東伊豆単成火山群、伊豆大島、鶴見岳、九重連山、霧島山、薩摩硫黄島・薩摩竹島、諏訪之瀬島)	国土地理院
火山地質図	縮尺 1/5万、1/2.5万等(桜島火山、有珠火山、草津白根火山、阿蘇火山、北海道駒ヶ岳火山、浅間火山、青ヶ島火山及び伊豆諸島南方海底火山、雲仙火山、那須火山、伊豆大島火山、霧島火山、三宅島火山、岩手火山、口永良部島火山、樽前火山、十勝岳火山)	産業技術総合研究所地質調査総合センター
火山土地条件図	縮尺 1/2.5万(桜島、十勝岳、草津白根山、阿蘇山、北海道駒ヶ岳、三宅島、雲仙岳、霧島山、有珠山、樽前山、磐梯山、富士山、伊豆大島、安達太良山、くじゅう連山、雌阿寒岳・雄阿寒岳、薩摩硫黄島、御嶽山、栗駒山)	国土地理院
日本活火山総覧	各活火山の地質、火山活動史、観測状況等の概要	気象庁
火山	火山学関連学会誌	日本火山学会
地質学雑誌	地質学関連学会誌	日本地質学会
第四紀研究	地質学関連学会誌	日本第四紀学会
地理学評論	地理学関連学会誌	日本地理学会
地学雑誌	地学関連協会誌	東京地学協会
地震	地震学関連学会誌	日本地震学会
砂防学会誌	砂防学関連学会誌	砂防学会

https://www.bousai.go.jp/kazan/shiryo/pdf/20130404_mapshishin.pdf

防災学術連携体のシンポの報告

2025年4月30日 「防災庁への期待」災害応急対応力をどう強化するか

日本第四紀学会 「第四紀学から防災行政への期待と貢献」 吾妻 崇

2024年8月22日 第6回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」

ー令和6年能登半島地震災害における課題と教訓ー
日本第四紀学会 「地形変化（長期的視点、海成段丘等）」
穴倉正展

2024年7月30日 令和6年能登半島地震7ヶ月報告会

日本第四紀学会 「令和6年能登半島地震による新潟市の広域液化化被害」 片岡香子

2024年3月25日 人口減少社会と防災減災

日本第四紀学会 「歴史上の気候変動と人口変動の関係性から学ぶ」 中塚 武

2024年3月25日 令和6年能登半島地震3ヶ月報告会

日本第四紀学会 「津波堆積物を用いた能登半島地震による浸水高の推定」 北村晃寿

2024年1月31日 令和6年能登半島地震・1ヶ月報告会

日本第四紀学会 「能登半島地震による海岸隆起と過去の隆起痕跡（海成段丘・生物遺骸）との関係」
穴倉正展

2022年10月20日 自然災害を取り巻く環境の変化ー防災科学の果たす多様な役割ー

日本第四紀学会・日本古生物学会 「熱海の盛土崩落の原因に関する地球科学的研究」 北村晃寿

2022年5月9日 自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか

日本第四紀学会 「福井県水月湖年縞堆積物から読み解く完新世後期の災害史」 鈴木克明

2021年11月6日 防災教育と災害伝承への多様な視点ー東日本大震災から10年を経てー

日本第四紀学会 「和歌山県新宮市に伝わる江戸時代の土砂災害慰霊碑の発見と活用」 西山賢一

2020年3月18日 「低頻度巨大災害を考える」

日本第四紀学会 「過去200万年間に於ける極低頻度巨大噴火の歴史と自然環境へのインパクト」 鈴木毅彦

2019年12月24日 令和元年台風第19号に関する緊急報告会

日本第四紀学会 「多摩川川崎における緊急調査結果」 小森次郎

2018年10月13日 あなたが知りたい防災科学の最前線 首都直下地震に備える

日本第四紀学会 「活断層・斜面地形・地下地質から首都直下地震を考える」 鈴木毅彦

2017年4月15日 熊本地震・1周年報告会 日本第四紀学会 第四紀学を活用した2016年熊本地震の調査

2016年8月28日 第1回 防災推進国民大会

日本第四紀学会 「百年・千年・万年スケールでみた火山噴火の頻度・特徴と噴火の影響が及ぶ範囲」 鈴木毅彦

・このように、本会は、約260万年間に及ぶ地震、津波、火山活動などの自然災害の履歴を調査し、その成果が災害の長期予測や防災政策の基礎的資料として重要な役割を果たしてきた。近年では**数値モデル**や**年代測定技術**の発展により、より微量の試料からも高精度で年代値および元素組成データを得ることが可能となり、**分析**および**影響評価**の**解像度**も格段に向上している。

・今後も本会は、**第四紀研究の知見を基盤として、過去から未来へとつながる「災害の科学」を深化させ、安全で持続可能な社会の構築に貢献していく。**

・公文書で引用されている研究成果の中で、学会講演の要旨と「**第四紀露頭集ー日本のテフラ**」は、研究成果の公共的活用を促進するため、**フリーアクセス化**に向けた準備を進めている。